



フジ・メディア・ホールディングス

CSRレポート

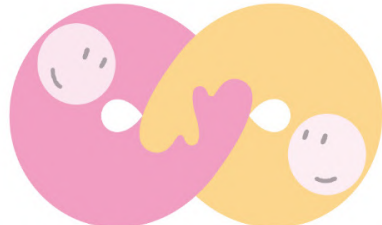
2021

FUJI MEDIA HOLDINGS CSR REPORT 2021

フジ・メディア・ホールディングスは

「メディア・コンテンツ」、「都市開発・観光」、「その他」の
3つのセグメントで構成されています。

CSRスローガン



つなげる笑顔 つながる心

メディアの力でできること∞
無限大

フジ・メディア・ホールディングスは
多様なメディアの集合体です。

各社業態は異なりますが、
共通する思いは「創造する力」を通じて
人と人をつなぎ、笑顔をつくること。

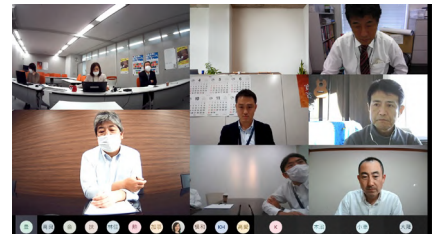
社会の一員として
どんな社会課題の解決に結びつけられるかを
常に考え、行動し続けます。

● CSR活動方針 [CSR=Corporate Social Responsibility 企業の社会的責任]

フジ・メディア・ホールディングスは、多様な事業活動を通じて社会へ貢献すると共に、視聴者・聴取者・読者・利用者・消費者のみならず顧客満足度の向上、経営環境の変化に対応した新たな企業価値の創造と持続的な成長をめざしています。また、グループ・ガバナンスの構築、グループ・コンプライアンスの確保を図り、適時・適切な情報開示を行っています。

● 活動体制

ホールディングス各社のCSR担当役員から構成される「CSR推進委員会」を年に1回開催しています。またその下部組織「CSR推進連絡会議」をオンラインでも開催し、CSR活動の報告や今後の展開を議論しています。



フジテレビジョン / BSフジ / ニッポン放送 / 仙台放送 / 共同テレビジョン / フジクリエイティブコーポレーション / NEXTEP / フジ
アール / フジ・メディア・テクノロジー / ポニーキャニオン / フジパシフィックミュージック / DINOS CORPORATION / クオラス /
サンケイビル / 扶桑社 / フジミック / エフシージー総合研究所 / フジキャリアデザイン / 18社とフジ・メディア・ホールディングス

計19社

● SDGs達成に向けた取り組み

SDGs (Sustainable Development Goals) 持続可能な開発目標は、貧困、環境、人権等地球規模の様々な課題を解決するための17の目標のことで、2015年に国連で採択されたもので2030年までの解決をめざしています。フジ・メディア・ホールディングス傘下のフジテレビ、BSフジ、ニッポン放送は、「SDGメディア・コンパクト※」に署名し、メディアの発信力をいかし現状を「伝える」ことで、世界を「変える」きっかけづくりに努めています。

※「SDGメディア・コンパクト」とは、世界中の報道機関やエンターテインメント企業に対し、その資源と創造力でSDGs達成のための活動を促すことを目的とした協力推進の枠組みです。



フジ・メディア・ホールディングスは、2018年4月より 国連グローバル・コンパクトに署名しています

企業は利益を追求する以前に、良き市民であるべきという考え方のもと、責任のある「企業市民」として、世界で起きている様々な問題を解決するために行動することが求められています。国連グローバル・コンパクトは、国連が提唱する人権・労働・環境・腐敗（強要や贈収賄等）防止に関する普遍的な10原則を守ることを「約束」するものです。1999年の世界経済フォーラム（ダボス会議）において提唱されたもので、世界162ヶ国・約1万3,800の企業・団体が署名し、「人権」「労働」「環境」「腐敗防止」の4分野・10原則を軸に活動を展開しています。日本国内では426の企業・団体が署名しています。（2021年7月時点）



重点的に取り組む課題 ～自社の事業活動と関連性があるもの～

子どもたちのために

未来を担う若い世代を
応援します。



共生社会をめざして

全ての人が生きづらさを
感じない社会をめざします。



地球環境のために

放送や自社の事業を通じて
環境への負荷を減らします。



復興支援・防災

クリエイティブな力で
被災地の復興をめざします。



パートナーシップで目標を達成する

SDGsの課題解決にはあらゆるステークホルダーの参加が不可欠です。
「情報伝達の媒介者」であるメディアは、パートナーシップを生むためのきっかけづくりを行います。



TOP MESSAGE

持続可能な社会の 実現に向けて

～グループ各社で発信～

株式会社フジ・メディア・ホールディングス
代表取締役社長

金光 修

President



フジ・メディア・ホールディングスのCSRレポートをご覧頂きありがとうございます。

当社は、放送の公共的使命と社会的責任を常に認識し、放送メディアを中心とした様々な事業を通じて国民の皆様の豊かな生活に貢献することを経営の基本方針としています。コンテンツの制作やエンターテインメントの提供者として、信頼される報道機関として、また都市開発・観光の担い手として、将来にわたり社会から求められる企業グループであるために、環境の変化に的確に対応しサステナブルな事業運営に努めて参ります。

SDGsについては、2018年4月に当社が国連グローバル・コンパクトに署名した他、これまでフジテレビジョン、BSフジ、ニッポン放送の3社が「SDGメディア・コンパクト」に署名し、番組を通じてSDGsの推進に努めています。2021年3月には、この3社で、地上波テレビ、BSテレビ、ラジオの3つのメディアが連動した「楽しくアクション！SDGs」キャンペーンを始動させ、音楽・バラエティ・情報番組等の企画を展開しました。

2020年度はコロナ禍にあり、従来のような被災地訪問やCSRのイベントは行えませんでした。BSフジでチャリティオークション等を行いその収益を医療従事者の支援等に。また他、ステイホームを余儀なくされた子どもたちのためにフジテレビを中心としたグループ数社で「デジタル紙芝居」を制作しネット上で公開しました。新しい日常の中にあっても、いち早くニーズをとらえ、できることを形にする、この姿勢を忘れずに、今後も社会貢献を続けて参ります。

フジテレビ、BSフジ、ニッポン放送 3波連合 SDGsプロジェクト始動！



楽しくアクション！SDGs 滅亡させない♡地球の作り方

2021年1月、フジテレビ、BSフジ、ニッポン放送の3社は、国際社会共通の目標として定められたSDGs（持続可能な開発目標）について、視聴者、リスナーと一緒に学び、考え、実践していくことをめざす「楽しくアクション！SDGs」プロジェクトをスタートさせました。オフィシャルアンバサダーは、ファーストサマーウイカさん。「滅亡させない♡地球の作り方」を共通スローガンに、「子どもたちが安心して暮らせる未来のために何ができるのか」「この地球で暮らし続けるために見直すべきことは何なのか」等、メディアの強みをいかして伝えることで、世界を変えるきっかけづくりができればと考えています。特に、ミレニアル世代やZ世代と呼ばれる、これからの地球を支える若い世代の方々と一緒に考え、行動するきっかけとなることをめざしています。

●公式HP：https://www.fujimediahd.co.jp/sdgs/enjoyaction_sdgs/



（左から）BSフジ 亀山社長 ファーストサマーウイカさん
ニッポン放送 榎原社長 フジテレビ 遠藤社長



フジテレビ、BSフジ、ニッポン放送は、SDGsを推進するメディアの枠組み
「SDGメディア・コンパクト」に署名しています。



●『地球HEROS～楽しく地球を救っちゃおう！！～』



「ゴミゼロ」をテーマに若い世代が中心となり、問題解決への取り組みを考える番組を2時間生放送でお届けしました。身近なことから少しずつ…地球に優しい行動が「カッコイイ」としてもらえようようなSDGsバラエティで、地球環境やゴミ問題について考えるきっかけを提供しました。

フジテレビ [2021年3月 7日 12:00～14:00放送]
BSフジ [2021年3月13日 15:00～17:00放送]



●『SDGs音楽特番 未来はぼくらの歌の中』



第一線で活躍するアーティストたちが“未来の子どもたちに伝えたい歌”について語り、そして歌うSDGs音楽番組。コロナ禍で混沌とする中、熱量のある名曲の数々に耳を傾け、音楽を通して「未来」を思う時間を提供したいという想いで放送しました。

[2021年3月17日 22:00～23:34放送]

●『EXITの未来を本気（マジ）で考える～フューチャーランナーズSP～』



SDGsの課題解決に取り組む人たちを紹介するミニ番組『フューチャーランナーズ』（※8ページ参照）の特別編。食料廃棄物を豚の餌に変えブランド豚として食卓に戻す“循環型”社会をめざす取り組みや、自ら考え行動するための“未来の授業”をEXITが体験。さらに過去に番組で取り上げた“ランナー”たちのその後も紹介しました。

[2021年3月20日 14:30～15:25放送]



●『サロガシー 母ではなく、私になる。』



第32回ヤングシナリオ大賞※で、大賞に選ばれたシナリオをドラマ化した作品。同性愛者の兄のために、そのパートナーとの子どもを代理母出産するというストーリーで、生きづらさを抱えるこの時代に生きる全ての人にとって、互いの存在を受け入れ自らを肯定できるきっかけになればとの想いで制作しました。

[2021年3月24日 24:55～25:55放送]

※「ヤングシナリオ大賞」は新たなシナリオライターの発掘を目的として設立されたシナリオコンクール。32回目は、1,567編の応募作品の中から、的場友見さんが大賞を受賞。才能の発掘だけでなく、実践的なシナリオワークショップを実施し、クリエイターの育成にも力を入れていきます。

● 『サステナブル・ワールド ～未来へつなぐSDGs』

2020年世界のSDGs達成度ランキングによると日本は166ヶ国中17位。今回は環境問題への取り組みに注目し、世界のSDGsに関する活動を見学しました。5年間で4度1位の座に就いているスウェーデン、そして2年間で10位から4位へと躍進したフランスと日本の3ヶ国の取り組みを紹介。「誰も取り残さない」持続可能な開発目標に対し、私たちが今後どう取り組むべきかを考えました。[2021年2月27日 16:00～16:55放送] BSフジオンデマンドで配信中



<BSフジ開局20周年企画>

● 『甦れ！東北の鉄道2021 検証 東日本大震災から10年』

東日本大震災から10年…鉄道の被災・復旧に焦点をあて、2012年から毎年放送を続けてきたシリーズ完結編。中村雅俊さんが「東北の鉄道」の10年を振り返り、「鉄道」および鉄道に代わるバス輸送が、「住み続けられるまちづくり」に、どのように貢献してきたかを検証しました。[2021年3月6日 19:00～20:55放送] BSフジオンデマンドで配信中



● 『東北魂TV』

※詳細は11ページ

● 『Earth Walker』 第10章 Distance

生命の惑星・地球と人間が共存するための知恵を求める滝川クリステルさんの冒険の旅。今回のテーマは「ディスタンス（距離）」。SDGsには、地球と一緒に暮らす生き物たちの環境を守ることが目標として掲げられています。しかし、地球を俯瞰して見ると、人間の活動を発端とする「距離」の問題が、至る所で発生。人間が、自然を壊して動物たちの生活圏に近づきすぎ、彼らのテリトリーを侵しています。北海道・道東で、シマフクロウやヒグマ取材して考えました。[2021年3月28日 18:00～19:55放送]



● 『旅する地球レストラン！ ～Traveling The Earth Restaurant～』

全国各地の知られざる食材・料理を発見し、屋外で料理をする番組。地産地消の取り組み・日本の食材の豊かさを知ること、自然の素晴らしさを感じられます。[2021年3月6日・13日 18:00～18:55放送]



● 『知りたい！SDGs』

これから先の未来、自分たちの青い地球はどうなっていくんだろう…今、世界では温暖化、貧困、格差社会…様々な地球規模の課題があります。SDGsが掲げる17の目標を、子どもや若者、高齢の方にもわかるよう、番組ナビゲーターの曾田麻衣子さんがSDGsの全体コンセプトや、各目標をひとつひとつわかりやすく解説し、目標の解決に取り組んでいる事例を紹介しています。



BSフジオンデマンドで配信中

[毎週木曜 22:55～23:00放送] 2019年10月より放送 ●制作：NEXTEP ●公式HP：<https://www.bsfuji.tv/sdgs/pub/index.html>

● SDGsを啓蒙するスポットCMを制作

2020年3月末より、SDGsを啓蒙するスポットCMを制作。社員からの公募企画作品を皮切りに、STU48やサンドウィッチマン等『東北魂TV』のメンバーを起用した作品を放送、配信しました。



FM93 AM1242

ニッポン放送 のSDGsへの取り組み

● ウイカはじめてのSDGs

～powered by ファーストサマーウイカのオールナイト
ニッポン0(ZERO)

「楽しくアクション！SDGs」オフィシャルアンバサダーに就任したファーストサマーウイカさんが、パーソナリティを務めるポッドキャスト番組。SDGsを学び、それぞれのゴールを考えるにあたっての「第一歩」を考えていきます。「SDGsについてしっかり考えてみたいけど、何からしたらいいかわからない」という方に必聴のショートプログラムです。

全コンテンツ配信中／2021年2月22日から配信スタート



<3月8日「1日まるっとSDGs STATION！」>

国際女性デーである3月8日に朝から各番組でSDGsを幅広い視点で特集し、放送しました。

● 『アクションSDGs～この地球、子どもに残せますか？』



SDGsって結局なにをすればいいんだろう？そんな基本を『SDGs MAGAZINE』パーソナリティの剛力彩芽さんと一緒に学び直しながら、“未来を担う子どもたちに、大人たちがどんな地球を残せるか”をテーマにした特別番組を放送しました。

[2021年3月8日11:00～13:00放送]

● 『ファーストVOICE～あなたの声を聴かせてください』

「国際女性デー」である3月8日、リスナーから「女性でよかったこと・よくなかったこと」を募集し、一緒に「女性の生き方」について改めて考える特別番組を生放送しました。

[2021年3月8日 22:00～24:53放送]



● 『ザ・ラジオショー』 SDGs予習ウィーク

「1日まるっとSDGs STATION！」に向け、3月1日からの1週間は「SDGs予習ウィーク」として、各番組で3月8日に向けた盛り上げ企画を放送。『ザ・ラジオショー』では14時台のゲストコーナー「ザ・ゲストショー」で、SDGsの啓発活動に取り組んでいる吉本興業に所属する芸人をゲストに迎え、SDGsに関するトークを連日お届けしました。

● 『SDGs MAGAZINE』

ニッポン放送では毎月1回、SDGsの現状や課題、そして、私たちにできることをわかりやすく紹介する特番番組を放送中。パーソナリティは剛力彩芽さんが担当しています。



その他のSDGsへの取り組み

フジテレビ/BSフジ

●SDGsのミニ番組『フューチャーランナーズ』

テレビの強みである「発信力」と「クリエイティブ能力」をいかし、課題解決に向けて熱心に取り組む人たちを紹介することで、SDGsを身近に感じてもらうとともに、多様な活動が認知されパートナーシップを生むきっかけになればという思いで制作しています。

“誰一人取り残さない”という理念のもと、放送時から英語字幕を付与、公式HPで放送内容を全てアーカイブ化。

●公式HP：<https://www.fujitv.co.jp/futurerunners/>



フジテレビ（関東ローカル）[毎週水曜22:54~23:00放送]
BSフジ（全国）[毎週土曜21:55~22:00放送]

●番組の英語字幕から生まれた英語学習サイト

『フューチャーランナーズ』と連動して、SDGsの知識と英語を一度に学べるサイト「サステナ英語レッスン」を開設しました。（2020年7月～毎週木曜更新）また、ユネスコ・アジア文化センターともコラボし、SDGs推進のポスターを作るなど、教育現場におけるコンテンツづくりをめざします。

●公式HP：<https://sasutena-eigo.fujitv.com/>



フジテレビ

●国連「SDGメディア・ゾーン」に参加

フジテレビ/フジ・メディア・テクノロジー



第75回国連総会の開幕にあたり、国連本部が設けた発信拠点「SDGメディア・ゾーン」（2020年9月15-29日）に向けたトーク・セッションを制作。「パンデミック時におけるメディアの役割」をテーマにフジテレビの他、新聞、ネットニュースの担当者と大学生が語り合いました。このコンテンツは国連のUN Web TV（<http://webtv.un.org/>）や公式SNSアカウントをはじめとした国連のオンライン・プラットフォームを通じて配信されています。

●ESSE online「今日からできる！暮らしのSDGs」

扶桑社/フジテレビ

SDGsをテーマにした月1回の連載記事で、社会課題についてわかりやすく解説し、暮らしの中でひとりひとりができることを紹介しています。

（フジテレビCSR担当 木幡美子執筆）●公式HP：https://esse-online.jp/author?writer_id=168

ESSE online

各社社内に向けてSDGsについての勉強会を実施しています。

●DINOS CORPORATION

「経営層向けサステナビリティセミナー」

- 第1回 講師…慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 蟹江憲史教授（2020年7月10日実施）
- 第2回 講師…一般社団法人サーキュラーエコノミー・ジャパン 代表理事 中石和良氏（2020年10月29日実施）

●ボニーキャニオン

- 人事総務部、経営企画室 SDGs勉強会
- 役員向けSDGs勉強会 講師…フジテレビ 木幡美子氏

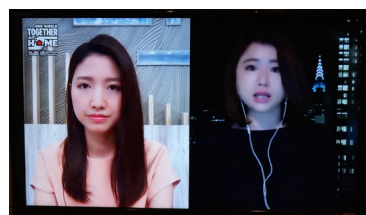
●フジキャリアデザイン

- SDGsについて会社として、また個人で取り組めることについての勉強会を実施 講師…フジテレビ 木幡美子氏

医療従事者支援・世界的なチャリティイベントを放送

●『One World : Together at Home』を放送

フジテレビ



非営利団体Global Citizenと世界保健機関（WHO）が、新型コロナウイルス治療の最前線で闘う医療従事者等への支援を目的として、全世界に向けて放送・配信したグローバル・ストリーミング・コンサート。フジテレビでは、この企画の趣旨に賛同し、当番組をFOD・CS放送でライブ配信・中継した他、同日深夜に地上波で日本語字幕を付けてCMなしで放送しました。

[2020年4月19日 25:30~27:40 フジテレビ 関東ローカル放送]

[フジテレビONE/FOD 同時サイマル放送&配信]

●第2弾『Global Goal: Unite for Our Future』を放送

この第2弾として開催された「Global Goal : Unite for Our Future」でも「ワクチンの開発支援と世界各地への普及支援」に貢献することを目的に、多くの豪華アーティストが集結。このイベントの〈日本語字幕完全版〉を、フジテレビとTBSが共同で放送しました。

[2020年6月28日 25:25~27:25 フジテレビ 関東ローカル放送]

[フジテレビNEXT/FOD 6月27日27:00~28:30 海外版日本語字幕付き放送]

日本版のチャリティイベントも続々開催

- 『STAY HOME, STAY STRONG~音楽で日本を元気に!~』 [フジテレビONE/FOD 2020年5月6日 25:00~28:00放送]
[2020年5月6日 25:25~27:55地上波にて放送]
- 『MUSIC AID FEST. ~FOR POST PANDEMIC~』 [フジテレビONE/FOD 2020年5月31日 18:00~21:00放送]
※ダイジェスト版を2020年6月16日26:10~27:40地上波にて放送

●全ての医療従事者への感謝・応援キャンペーン

ニッポン放送

夕方4時の時報直後に、ニッポン放送ファミリーをはじめ各界の有名人・著名人が医療従事者に向けて感謝と応援のメッセージを伝えました。またハッシュタグ「ラジオから医療従事者に感謝の声」に、同様に寄せられたメッセージをSNS上に展開しました。[2020年4月27日~2020年7月3日]

●FNNプライムオンライン「新型コロナウイルス特設サイト」

フジテレビ

フジ・ニュース・ネットワークが運営するニュースサイトFNNプライムオンラインでは、「新型コロナウイルス特設サイト」を開設し、日本国内および世界各国の累計感染者の推移や、ワクチンに関する最新ニュース等、生活に必要な情報をわかりやすく発信しています。

[2020年7月8日11時~特設サイトスタート]



●コロナ対策コラム「教えて! IPM博士」を公開中

エフシー総合研究所/扶桑社

「新型コロナウイルス感染症対策」に関する情報をコラム形式で、一般の方々が「感染症とどのように向き合い、生活するのか」をわかりやすく紹介しています（2021年5月現在で14回掲載）。紹介した記事の一部は扶桑社の「ESSE online」にも掲載しています。



エフシー総合研究所 暮らしの知恵 教えて! IPM博士

- 公式HP : https://www.fcg-r.co.jp/IPM_hakase/

＜チャリティオークション等で医療従事者を支援＞

BSフジ

●『大箱根・川奈チャリティマッチプレーゴルフ2020 "The 16 Ladies"』

BSフジでは、開局20周年スポーツスペシャルとして、16人による真剣勝負のトーナメント戦を放送。番組を通じて出場選手のサイン入りグッズによるチャリティオークション（ヤフオク!）を実施しました。収益金は、国際医療ボランティア「ジャパンハート」を通じて、医療従事者への支援に充てられました。なお、選手が獲得した賞金の半額は医療従事者、令和2年7月豪雨被災者への支援のため「風に立つライオン基金」等に寄付しました。[2021年8月22日・23日]



チャリティオークション合計落札額 **1,210,000円** 《寄付先》 特定非営利活動法人ジャパンハート

●公式HP：<https://www.japanheart.org/>

※手数料と消費税を差し引いた額が寄付されました。

●フジサンケイクラシックでは、トーナメントの運営費の一部、105万円を同団体に寄付しました。

●おうち応援プロジェクト「デジタル紙芝居」

おうち時間を楽しんでもらいたいという思いで新たにスタートした「おうち応援プロジェクト・デジタル紙芝居」。フジテレビの美術担当者によるオリジナルの作画とアナウンサーの朗読により、フジテレビ版名作童話が7作品完成しました。これまでに35人のアナウンサーが参加、それぞれの個性を生かして独自の世界を展開しています。これらの作品は、フジテレビのYouTubeチャンネルやHPで公開しており、学校や団体等でも活用して頂けるようDVD化し寄贈しています。

フジテレビ/FCC



作品一覧

1. 「注文の多い料理店」宮沢賢治
2. 「ブレーメンの町楽隊」グリム兄弟
3. 「ごん狐」新美南吉
4. 「蜘蛛の糸」芥川龍之介
5. 「賢者の贈り物」オー・ヘンリー
6. 「手袋を買いに」新美南吉
7. 「シンデレラ」アンドルー・ラング

●ステイホームを応援！親子で踊って運動不足を解消

フジバンフィックミュージック



「エクササイズでStay Home!」

「子供の笑顔推進プロジェクト」として子どもも大人も一緒に踊れる動画を配信しました。子どもが無条件に身体を動かして笑顔いっぱいになるような楽曲を使用しています。

【踊ってみた】エクササイズ動画【おやこで】

- 「はじめてのチュウ」解説付ver.
- 「Runner」解説付ver.
- 「Diamonds＜ダイヤモンド＞」解説付ver.

<https://youtu.be/RUdr3Ky2Bvs>
<https://youtu.be/wLXJZ5NgSQ>
https://youtu.be/BsZl4_GdX2o

フジテレビ

●「そらふちキッズキャンプ」をバーチャル体験

「そらふちキッズキャンプ」の活動趣旨に賛同し、2009年からキャンプでの朗読会や食育イベントを開催。また当団体は「東京マラソン」チャリティランの寄付先になっているため、放送を通じて紹介するなどのサポートをしてきました。新型コロナウイルスの影響でキャンプ場に来ることができない闘病中の子どもたちにVR（バーチャルリアリティ）でキャンプ体験をしてもらうことを企画提案し、夏・冬バージョンの映像を制作、「そらふちキッズキャンプ」を通じて、病院の子どもたちに届けられます。

- 「そらふちキッズキャンプ」HP制作：エフシージー総合研究所

公益財団法人

そらふちキッズキャンプとは？

北海道滝川市にある医療施設を完備したキャンプ施設。小児がんや心臓病等の難病と闘う子どもたちやその家族が、自然の中で笑顔で楽しい時間を過ごす場を提供しています。



伝える責任 ～人々の命を守るために、メディアができること～

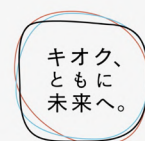
公共性の高いメディア企業にとって、震災等の災害報道は重要な「使命」と認識し、常に「迅速」かつ「正確」な報道を心がけています。国民の命を守るための報道、即応体制の構築、災害の記憶を風化させないための継続的な報道等に努めています。

民放NHK 6局共同防災プロジェクト

フジテレビ

『キオク、ともに未来へ。』

東日本大震災から10年を機に、フジテレビはNHKとともに、民放キー局に働きかけ、民放NHK 6局共同での防災プロジェクトが立ち上がりました。『キオク、ともに未来へ。』をテーマに、3月6日～31日の間、互いに震災アーカイブ映像を共有し取材協力を行いながら、各局がそれぞれニュース企画やドキュメンタリー番組等、災害報道に取り組みました。



民放 NHK 6局防災プロジェクト

● 『あしたの命を守りたい～NHK民放取材者たちの震災10年～』



NHKで放送されたこの討論番組では、史上初めて6局の災害報道に携わったキャスターや記者が一堂に会しました。NHKの鈴木奈穂子アナとフジテレビの伊藤利尋アナが司会を務め、「あしたの命を守るために何ができるか」「災害の教訓をどう生かしていくか」等について、それぞれの取材経験等をふまえて活発な議論を展開しました。

[2021年3月14日 13:50～15:00放送]

● 『Mr.サンデースペシャル

わ・す・れ・な・い 宮古市を襲った5つの津波』 [2021年3月7日 21:00～23:09放送]

● 『わ・す・れ・な・い 未来へ…10年目の総検証』

これまで22回の放送を重ねてきた『わ・す・れ・な・い』シリーズ。今回は各局から提供された津波の映像も交えながら、2つの番組で津波被害の実態について多角的に検証しました。いろいろな角度から撮影した映像を組み合わせることにより、より詳細な状況が浮かびあがる内容となりました。 [2021年3月11日 15:15～16:50放送]



● ザ・ノンフィクション 『わすれない 僕らが歩んだ震災の10年』

フジテレビ

宮城と福島で、家族や仲間、故郷を失った2人の少年と少女が歩んできた10年を追った記録を、2週にわたり放送しました。石巻・大川小の「てっちゃん」こと只野哲也さんともう1人は当時小学6年生だった島絵理奈さん。今は21歳と22歳になった彼らが、「10年」の想いをカメラの前で語ってくれました。

[2021年3月7日（前編）・14日（後編） 14:00～14:55放送（関東ローカル）]



● 『東北魂TV』

BSフジ

“笑いで東北を、日本を元気に！”をテーマに、サンドウィッチマンやマギー審司さん、鳥居みゆきさん、狩野英孝さん等東北出身のお笑い芸人が集結し、2011年10月から『東北魂TV』を継続して10年間放送しました。サンドウィッチマンが立ち上げた「東北魂義援金」は、2021年2月時点で総額4億9,117万5,719円に達しています。



被災地の放送局だから伝えられること

仙台放送

震災翌月から10年間で120回放送

●東日本大震災 特別企画『ともに』

宮城県の地元放送局として、被災した方や被災地に寄り添いたいという思いから震災翌月から番組をはじめ、2021年3月までに120回放送。今もなお続く復興への歩みやそれを支える人々の思いを伝え続けています。継続的な取材先も含めると10年間で400のグループや活動を紹介してきました。[月1回 土曜日放送]



使命感を持って10年間震災を伝え続ける佐藤拓雄キャスター



今年3月の120回目の放送で、改めて、「私たちは、震災で大きな被害を受けたこの宮城県の放送局として、これからも震災に向き合い続けていきます」と伝えました。10年前から変わらない、私たちの思いです。10年経って、震災を経験していない世代が増え、震災を伝えることがますます大切になるという思いも強くなりました。加えて、伝え手の私たちも、伝え手としてのバトンをつないでいくことを強く意識する時期になったとも思います。10年経ったからといって、震災は終わったわけではなく、「区切り」などありません。最後の一人が「復興した」と言えるまで、震災を伝え続けること。そして、震災を伝えることを、次の世代に継承していくこと。これが、仙台放送で震災を経験した私たちの使命だと思っています。

●『明日への羅針盤～あれから10年 被災地の未来は～』

岩手、宮城、福島の前系列3局で5回目となる合同特別番組を放送しました。発災直後から被災地の現場を取材し、さらに被災地の変化を客観的に話せるキャスター安藤優子さんとともに、震災から10年が経過した被災地の今、未来の命を守る取り組み等を伝えました。

[2021年3月11日 15:15～16:50放送]



●東北・みやぎ復興マラソン2020

2017年からはじめた東北・みやぎ復興マラソンは、台風や新型コロナウイルスの影響で2019、2020年と2年連続中止となりました。しかし一方で、多くのランナーの被災地を応援したいという気持ちは根強く、仙台放送では、その気持ちに何かしらの形で応えたいと考えついたのが「オンライン」による大会でした。初のオンライン復興マラソンは、エリア別に3回開催し、のべ7,881人のランナーが参加しました。

東北・みやぎ **オンライン** 復興マラソン
TOHOKU-MIYAGI ONLINE REVIVE MARATHON



スペシャルアンバサダー「サザエさん一家」



第1回 気仙沼市～南三陸町コース
8/1～8/15

第2回 石巻市～女川町～東松島市コース
9/5～9/19

第3回 岩沼市～亶理町～名取市コース
10/3～10/17

被災地に子どもたちが誇れる桜の名所を…

● 「ふくしま浜街道・桜プロジェクト」を継続支援



「30年後に子どもたちが世界に誇れる桜並木を作りたい」との思いからスタートした「ふくしま浜街道・桜プロジェクト」。その趣旨に賛同し2013年から協賛しています。2021年3月28日には、フジ・メディア・ホールディングス各社の有志が福島県相馬市で桜の植樹活動を行い、これまでに植えた桜は計1,360本になりました。さらに2020年度からは株主様の議決権のスマート行使により削減された郵送費用の一部をこの桜の植樹活動に役立てています。

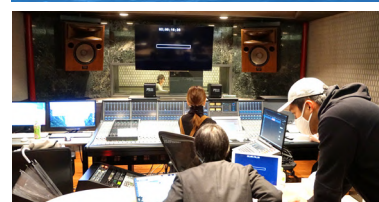
● 「ずっとおうえんプロジェクト2011+10…」

フジテレビ

2020年度は、コロナのため被災地を訪れることはできませんでしたが、アニメ作品を通じて被災地を支援する「ずっとおうえんプロジェクト2011+10…」を立ち上げました。2021年度中に岩手・宮城・福島を舞台とするアニメ作品を制作・公開します。

2020年はこのアニメ作品の素材を利用して、被災地の子どもたちの支援をしている公益社団法人「ハタチ基金※」の紹介動画を制作するというプレ企画を行いました。フジテレビの番組制作者の指導を受け、高校生が動画を完成させ、2021年3月にYouTubeで公開しました。

※ディノスでは、「ハタチ基金」の活動に賛同し、継続的にカタログの売り上げの一部を寄付しています。



「ずっとおうえんプロジェクト」とは

フジテレビでは、2011年からオリジナルの被災地復興支援を行っており、これまでに209ヶ所を訪れ、約25,700人を対象にニーズにあった支援を行ってきました。（2020年度は未開催）

フジテレビ
ずっとおうえん
プロジェクト

「ずっとおうえんプロジェクト2011+10…」

- 2021年4月～6月放送『バクテン!!』
- 2021年8月公開予定『岬のマヨイガ』
- 2021年12月公開予定『フラ・フラダンス』

3月11日 上柳昌彦アナが東北各地の“いま”をお届け

ニッポン放送

● 『オールナイトニッポンGOLD～東日本大震災から10年を迎えて～』

震災当日に有楽町・ニッポン放送のスタジオで生放送を担当していた上柳昌彦アナウンサーがこの10年で取材を通じて、出会ってきた東北各地のみなさんの様子を生放送。東日本大震災から10年という大きな節目を迎える夜に東北各地の“いま”をお届けしました。

[2021年3月11日 22:00～24:00放送]

CONTENTS

特集

- 特集1 SDGsへの取り組み P4
- 特集2 コロナ禍での取り組み P9
- 特集3 東日本大震災から10年 P11

子どもたちのために

- 「あなせん」・食育出前授業 P15
- 社内見学ツアー・若者の学びをサポート P16

誰もが生きやすい社会のために

- 障害者のための支援活動 P17
- 放送を通じてパラスポーツを支援 P18
- FNSチャリティキャンペーン他 P19
- コンテンツのバリアフリー P20

地球環境のために

- 合同清掃活動・ふくのわプロジェクト他 P21
- その他の環境への取り組み P22

被災地復興支援

P23

フジサンケイグループの取り組み

P24

ESGデータ集 P25 / マネジメント体制 P26 / 財務サマリー P29

各社本業をいかした出前授業や“体験イベント”を実施

“伝えるプロ”が子どもたちの伝え合う力をサポート

●「あなせん」プロジェクト

「あなせん」（＝アナウンサー先生）は、2005年にアナウンサーが主体となってスタートしたコミュニケーション能力向上のための出前授業です。メールやSNSでのやりとりが多くなった今、改めてFace to Faceで伝え合うことの楽しさや大切さを子どもたちに教えています。キャリア教育の一環としてテレビ局の仕事を知ってもらう機会も提供しています。

フジテレビ / 扶桑社



2020年度はコロナの蔓延により感染対策をとりながら9校で実施、緊急事態宣言中には『めざましテレビ』のセットからオンラインで開催しました。

子どもたちに朗読と生演奏を

フジテレビと東京文化会館は、毎年アナウンサーの朗読とプロの芸術家の演奏による「朗読と音楽のコラボ授業」を小学校で行っています（10月27日 江戸川区立篠崎第二小学校で実施）。2020年11月7日にはこれを発展させた朗読と音楽のコラボイベント『3歳からの楽しいクラシック』を東京文化会館小ホールで行いました。



プロジェクト概要

- 対象：小学校3年生～6年生
- 講座内容：[スピーチ][インタビュー][音読]
- 実施エリア：関東1都6県

「あなせん」公式HP
<https://www.fujitv.co.jp/csr/anasen/>



オリジナルテキスト
 は扶桑社と協働して
 制作

活動実績 2005年からの累計

251ヶ所 20,120人

の子どもたちを対象に実施 (2021年3月末現在)

●食育出前授業「ハロー！どっこくん」

フジテレビ / エフシージー総合研究所

季節の食材をバランスよく食べることや運動の大切さを教える食育出前授業を行っています。アナウンサーによる大型紙芝居の読み聞かせやうんちのキャラクター「どっこくん体操」等で構成された約40分の楽しいプログラムで、2010年にエフシージー総合研究所をはじめとするフジ・メディア・ホールディングス各社が協働してスタートし、全国各地のイベントや幼稚園・保育園等で展開しています。



©フジ・メディア・ホールディングス / CSR2010



2020年10月26日：愛知県名古屋市慶和幼稚園の園児250人を対象に実施

2010年からこれまでに

190ヶ所に伺い 22,780人を対象に実施

(2021年3月末現在)

- 「ハロー！どっこくん」公式HP <https://www.fujitv.co.jp/csr/dokko/>
- コロナ禍の運動不足解消のために「どっこくん体操」をYouTube公開 <https://www.youtube.com/watch?v=zv5BQKpwy7M>

●社内見学ツアーをライブで配信

フジテレビ／フジ・メディア・テクノロジー

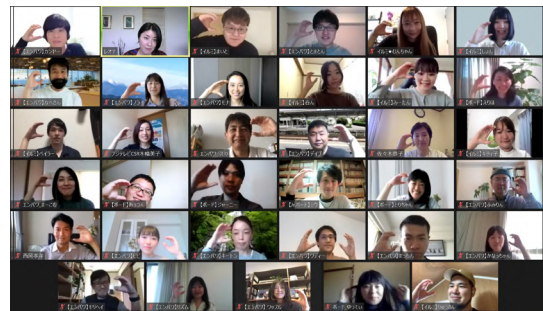


犯罪や事故で家族を失ったご遺族に対し、警視庁犯罪被害者支援室と共同でフジテレビの社内見学ツアーを企画・実施しました。2019年はリアルで開催しましたが、2020年は梅津弥英子アナの案内でノンストップ生配信。5家族6人の子どもたちが自宅からパソコン等で参加し、番組制作の舞台裏を見たり、スタジオでアナウンサー体験もして頂きました。

●児童養護施設出身の若者を指導「ブリッジフォースマイル」

親を頼れない子どもたちが、自らの経験を語るイベント「コエール」（主催：認定NPO法人ブリッジフォースマイル）の趣旨に賛同し、スピーチを行う4人に対して、奥寺・佐々木・島田・小穴アナがオンラインで話し方を指導しました。[2020年5月24日・6月21日実施]

なお、フジ・メディア・ホールディングスは、不用となった書籍を（株）バリューブックスへ寄贈することで、児童養護施設を巣立つ子どもたちを応援しています。



2014年度からの合計 **24,035冊** 寄付総額 **115万3,008円**
(2021年3月末現在)

●BSフジ×武蔵野大学寄附講座「未来型都市とメディア」

BSフジ

東京オリンピック・パラリンピックを視野に5年前から始まった武蔵野大学との連携講座。同時に臨海副都心地区のまちづくりも模索する内容となっています。フジ・メディア・ホールディングス傘下の経営、技術、ドラマ制作、BS、CSRなど多分野にわたる担当者が、それぞれ未来への都市やメディア、社会の変化の見通しとともにテレビ放送の現状などを語りました。2020年度は、パンデミックの中、オリンピックも延期となり、キャンパスも閉鎖という不自由な環境下での自宅学生へのリモート講義となりました。技術局の支援を受け、感染を回避するため、予めリモート用素材を収録して、大学配信用に提供するという異例の形となりましたが、2020年度も予定どおり、無事終了しました。BSフジを窓口、フジ・メディア・ホールディングス各社が関わるこの講座をこれまでで、およそ500名に及ぶ学生が受講しています。

[2020年度 毎週水曜日 全16回]

ニッポン放送

●自然災害に伴う入試時間変更等をラジオで発信

ラジオの特性を生かし、大雪や地震等の自然災害による、東京・神奈川の私立中学・高校の入試日程の変更という事態に対処すべく、1月下旬～2月中旬の受験シーズンに、『東京・神奈川 私立中学高校 入試時間変更等緊急連絡放送』を実施しました。これはニッポン放送が平成6年から東京と神奈川の私立中学高等学校協会と相互協力して大地震の際に児童・生徒の安否を放送で伝えるニッポン放送独自の「学校安否情報」を使用しています。

共生社会のための各社の取り組み

視覚障害者のためのチャリティを46年間継続



●「第46回 ラジオ・チャリティ・ミュージックソン」

2020年度のパーソナリティはKis-My-Ft2/SixTONES

「ラジオ・チャリティ・ミュージックソン」は、ニッポン放送が1975年から行っている視覚障害者のためのチャリティ活動です。毎年クリスマス・イヴからクリスマスにかけての24時間の特別番組を中心に、ラジオを通じて募金を呼びかけるもので、3年連続のKis-My-Ft2と初のSixTONESがメインパーソナリティを努めました。前回の募金額を上回った他、今世紀になっての最高募金額を3年連続で更新しました。



寄せられた募金は、目の不自由な方が安心して街を歩くのに役立つ「音の出る信号機」の設置や、本を音声朗読した「声の図書」「立体コピー機」等多数の視覚障害者用教育機器等に使われます。

- 特番放送：2020年12月24日正午～25日正午
- パーソナリティ：Kis-My-Ft2 / SixTONES
- 募金受付期間：2020年11月1日～2021年1月31日

これまでに **3,245基**の
「音の出る信号機」が設置されました。

最終募金額 **9,058万 6,533円**

これまでの
合計金額 **47億6,263万9,984円**



フジパシフィックミュージック

●「HANDSIGN」手話ダンスを広げる活動を継続



歌、ダンス、手話という新しい表現方法で伝える手話パフォーマー「HANDSIGN」は、手話ダンスを通じて若い世代に手話を広める普及活動を、地元神奈川を中心に全国各地で行っています。手話を交えた独自の表現方法でメッセージを届け、音楽とパフォーマンスで全ての人達が楽しめるライブ空間を追求し続け、聴者とうろう者の架け橋になりボーダレスな社会の実現をめざして活動しています。

JCI JAPAN TOYP 2020でグランプリを受賞

メンバーのTATSUが、青年版国民栄誉賞と称される「JCI JAPAN TOYP 2020」でグランプリ（内閣総理大臣奨励賞＆日本放送協会会長奨励賞）を受賞しました。

「手話を取り入れた音楽エンターテインメントを15年に渡り継続。また、東南アジアの貧困地域やろう学校での社会貢献支援活動等が評価されました。」



放送を通じてアスリートを支援

●超えろ！みんなで。

パラアスリートの言葉を発信『パラ★DO！』

フジテレビ

「東京パラリンピック延期は人生最大のメンタルトレーニング」そう語ったのは、パラカヌーの瀬立モニカ選手。

「逆境をプラスに！」パラアスリートだからこそ語れる深い言葉です。コロナ禍により時にはオンラインによる取材も駆使。西山喜久恵アナがパラアスリートの心の奥の言葉を聞き出し、パラスポーツの意義を伝え続けました。

[2020年4月～9月放送]

誰もがいきいきと暮らせる共生社会の実現をめざし、
公式HPでも情報を発信しています。
<https://www.fujitv.co.jp/sports/parado/>



●『ニッポンチャレンジドアスリート』

ニッポン放送



障害者スポーツの魅力を伝え、応援・啓蒙するラジオ番組を2015年4月より放送しています。障害を持ちながら、国際舞台をめざすアスリートたちの素顔、その競技の魅力や彼らを支える人々の活動を紹介することで、共生社会について考えるきっかけを提供し、パラスポーツを応援しています。

[毎週月曜～金曜 15:20～15:25放送]

●公式HP：<http://www.1242.com/challenged/>

●『アキレアの橋～2020遙かなる東京へ～』

BSフジ

第31回『2020五輪再始動 ～ピンチをチャンスに、コロナ禍八カ月間の記録～』

コロナ騒動の中で練習の場と戦いの機会を失ったトップアスリートたちが“ピンチをチャンス”に変え、決して悲観することなく、前向きに戦いの準備を進めている姿を取材してきました。プレゼンターは五輪金メダリストの野村忠宏さん。2020年春の再始動から本番の2020オリンピックへ向けての8ヶ月の物語を放送しました。[2020年11月7日19:00～20:55放送]

BSフジ／サンケイビルテクノ

●『にっぽんの要～わかる・かわる 介護・福祉～』

4人に1人以上が高齢者という日本。今の「にっぽんの介護・福祉」を学び、これからを「あかるく・前向きに・自分ごと」として考える番組を制作。介護・福祉を学ぶ学生たちのワークショップでの取り組みを交え、これまでの介護・福祉の概念やイメージを変えていく特別番組を放送しました。

(メイン司会：要潤／介護福祉士・モデル：上条百理奈)

[2021年2月7・14・28日3回放送]

にっぽんの要～わかる・かわる介護・福祉～

●公式HP：<https://sankeikaigofukushi.com>

※「介護のしごと魅力発信等事業」への取り組みの一環でサンケイビルテクノと協働

誰一人取り残さない社会をめざす取り組み

世界の子どもたちの貧困解決に向けて

●FNSチャリティキャンペーン



FNSチャリティキャンペーンは、「世界の子どもたちの笑顔のために」をメインテーマに実施しているチャリティ活動です。フジテレビ系列各社およびBSフジが、放送やイベント等の募金活動を行い、ユニセフ（国際連合児童基金）を通じて国際貢献を続けてきました。47年に及ぶ活動の募金総額は43億円に達しており、アジア・アフリカ等世界の開発途上国の子どもたちのために役立てられています。



2020年度は、アフリカ南東部・モザンビーク共和国の子どもたちを支援しましたが、全世界的な新型コロナウイルス感染拡大により、活動の核となる現地取材、および、情報番組「とくダネ！」での放送ができず、また系列各社のイベント等による募金活動も大幅に制限されました。このため、引き続き、2021年度もモザンビークを支援していくことになりました。

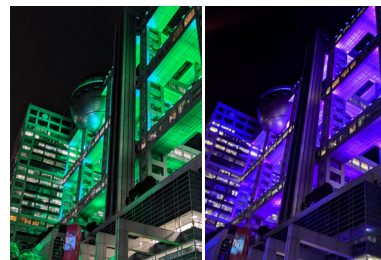
モザンビークは世界最貧国のひとつとされ、人口の約半数が国際貧困ライン（1日1.9ドル未満）を下回る生活をしており、5歳未満の子どもの43%は重度・軽度の栄養不良に陥っています。圧倒的に保健従事者が不足する中、各地で毎年のように発生する洪水や干ばつ、北部での紛争激化で、食糧危機や水・衛生施設、学校や保健施設へのアクセス等不利な立場に置かれた人々がますます危険に晒されています。また新型コロナウイルス感染拡大による状況の深刻化も懸念されています。

2020年度の最終寄付総額 **1,832万 9,233円**

集まった募金は公益財団法人日本ユニセフ協会を通じて、モザンビーク共和国の子どもたちの支援に活用されます。

●社屋イルミネーションAURORA∞を活用して アウェアネスカラーライトアップを実施

2020年4月、フジテレビの社屋イルミネーションが生まれ変わりました。その名もAURORA∞（オーロラ）。本社ビルの球体展望室、7階庭園を中心にやさしい光で照らします。カラフルなライトアップで臨海副都心エリアのにぎわいを創出するとともに、社会課題への支援の意思を色で表すアウェアネスカラーの点灯も継続しています。



グリーンリボン運動

パープルリボン運動

●「ピンクリボン運動」への継続的支援を実施



インナーブランド「ディランジュ」でお客様が1回お買い上げ頂くごとに売り上げの一部を寄付するなど、年間を通じて「ピンクリボン運動」を積極的に応援しています。また、通年の取り組みに加え、乳がんへの正しい知識と検診の大切さを伝え、患者さんへの支援を呼びかけるピンクリボン月間である10月に、通常の寄付を拡大して実施しました。寄付金は、公益財団法人日本対がん協会 乳がんをなくす「ほほえみ基金」の活動に役立てています。

〔寄付総額：1,083,140円〕

ディノス

●「指でも目でも読める点字」をエレベーターに設置

フジ・メディア・ホールディングスおよびフジテレビ本社の障害者用エレベーターに「みんなが読める点字」を採用しました。視覚障害者は点字に触れることで意味を把握し、その他の人は印刷された文字を目で見て認識できるユニバーサルな点字です。



あらゆる人にコンテンツを楽しんでもらうために

●コンテンツにおけるバリアフリー

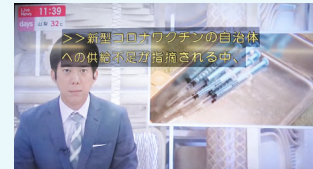
放送におけるバリアフリー

フジテレビ／共同テレビ／FCC／フジミック

番組コンテンツをより多くの方に届けたい、そんな思いから、字幕放送、解説放送、字幕データ放送を制作しています。またフジテレビが2020年度に公開した全ての映画に字幕と音声ガイドを付与しました。

字幕放送

聴覚障害者や高齢者等、テレビの音が聞こえにくくなった方々にも番組を楽しんで頂くために、テレビの音声を文字にして画面に表示する字幕放送を行っています。ニュース等では、生字幕＝リアルタイムで字幕を付ける付与を進め、さらに生放送のバラエティやスポーツ中継等でも積極的に字幕を付けています。CM字幕放送も増やすべく対応を進めています。



ニュース等の生放送番組にもリアルタイムで字幕を付けています。

解説放送

目の不自由な方々にテレビを楽しんで頂くために副音声を使って画面の解説を行う解説放送を行っています。場面設定や出演者の動き等をナレーターが簡潔に説明します。

字幕データ放送

どの地域でも字幕放送を視聴できるよう、番組素材に字幕放送データを付与して各系列局に供給。番組素材をデータファイル化して字幕を同梱し、各局の放送時間にオンラインで配信しています。

●手話放送

『テレビ寺屋』
[毎週土曜4:52～5:22放送]

●解説放送付与番組

『ワンピース』
『はやく起きた朝は…』
『ちびまる子ちゃん』
『サザエさん』
『MUSIC FAIR』
単発ドラマや邦画等

映画におけるバリアフリー

フジテレビ

2020年度に公開した全ての映画に日本語字幕を付けました。(後日発売されるDVD・Blu-rayにも字幕を付与) また、視覚障害者のお客様にも映画をお楽しみ頂けるよう、全ての映画に《音声ガイド》(映画の視覚的な情報を補うナレーション)を付け、バリアフリー上映も行いました。

2020年度に音声ガイド付き上映を行った作品



©2020「コンフィデンスマンJP」製作委員会



©2020映画「弱虫ペダル」製作委員会



©2020映画「約束のネバーランド」製作委員会

『コンフィデンスマンJP プリンセス編』

『弱虫ペダル』

『とんかつDJアゲ太郎』

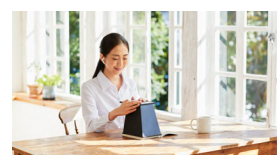
『約束のネバーランド』

●読書支援サービス「YourEyes」



日本初の読書に特化した読み上げサービス「YourEyes (ユアアイズ)」は、目の見えにくくなった方、視覚に障害のある方、文字の認識が難しい方が、ご自身で自由に読書を楽しむことができるサービスです。

ポニー・キャニオン



各社の環境活動に対する取り組み

● 合同清掃活動を通じてお台場のまちをきれいに

フジテレビ



フジ・メディア・ホールディングス各社から計42人が参加した清掃活動

～清掃活動に向けて～

(株) エフシージー総合研究所
川上研究員より
清掃についてのアドバイス

以下を留意して活動を行いました。

- 当日の朝、少しでも咳が出る方は、清掃活動への参加を控えてください。
- マスクを着用、軍手も必ずつけてください。
- 単独で回収作業してください。
(複数で固まらない)
- 落ちている「マスクと紙類 (特にティッシュペーパーを丸めたもの)」は、軍手を使わず、必ずトングでつかみましょう。
- 落ちている「ピンと缶」 (特に、階段等で立てて置いてあるもの) は、口の部分に触れないように回収しましょう。

2012年からフジ・メディア・ホールディングス各社の有志で合同清掃活動を年3回開催しています。2020年度は新型コロナウイルスの影響で、感染対策をとりながら7月と11月に実施。これまでに開催した回数は24回になりました。東京オリンピック・パラリンピックも見据えてお台場を訪れる人たちが、快適に過ごして頂けるよう、地域の美化に貢献しています。[2020年7月22日・11月10日実施]

● ふくのわプロジェクト

フジテレビ

不用になった衣服を回収、売却し、収益金をパラスポーツ (障害者スポーツ) の支援に充てようという「ふくのわプロジェクト」に参加しています。(主催: 産経新聞社) 社員食堂の横に回収ボックスを設置したところ、予想を上回る量の衣服を回収することができました。

2020年7月～2021年3月末まで **847.6kg**を回収・寄付



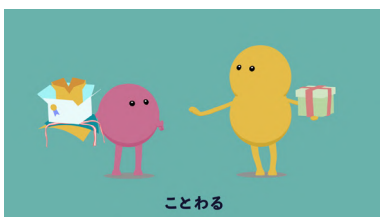
● 廃材処理を通じた環境への取り組み

フジテレビ / フジアール

番組セット等を廃棄する際、処理を大道具制作会社に委託せずに、全番組の廃材をまとめて廃棄事業者へ直接委託する「一括処理」を行っています。この取り組みは2010年から続けられていて、排出事業者としての責任を全うすると同時に、リサイクル率向上と処理費用の低減につなげています。

● 民放連環境CMを制作

フジテレビ



日本民間放送連盟では毎年、環境啓発スポットCMを制作しており、今回はフジテレビが制作しました。「やれることから始めよう 守ろう! 地球環境」をテーマに、「ゴミは分別して捨てる」「不要なものはもらわない」「電気はこまめに消す」ことを呼びかけています。

[2021年4月～2年間全国で放送予定]

・公式HP: <https://j-ba.or.jp/category/topics/jba105456>

●ミニ番組『環境クライシス』を放送

フジテレビ



過去3回にわたり放送し、COP（国連気候変動枠組条約締約国会議）のジャパンパビリオンでも上映されるなど高い評価を得た『環境クライシス』のミニ番組を、レギュラー放送しました。今回は、前シリーズの「写真家たちとともに受け継ぐべき日本の風景」で撮りためてきた映像や写真を使って、子どもたちに特別授業を実施。授業を通して、目の前に起きている気候変動、それによって引き起こされるリスクを映像とともに伝えました。

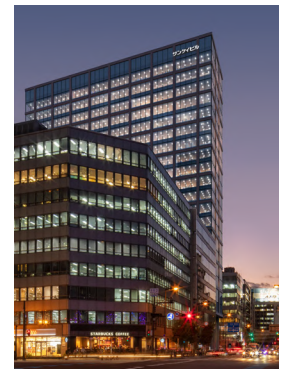
[2020年7月～9月 毎週月曜22:54～23:00放送（関東ローカル）]

●環境への配慮を図り、共生をめざす事業活動を実施

サンケイビル

環境配慮型のオフィスビル

本町サンケイビル（大阪市中央区本町・2021年8月竣工）は、水冷ヒートポンプ方式の導入により、室内の熱を水蒸気として大気に放熱することで、ヒートアイランド対策に貢献しています。また、熱源水を介して冷房時の排熱回収を図り、暖房や給湯を行っています。さらに、過冷却を防ぎ安定的な冷暖房運転を実現し、冷暖房効率を高め、エネルギー負荷を低減させています。



本町サンケイビル

資源を無駄にしない新しいワークプレイス



GREAMS日本橋

既存の躯体を生かすことによって解体に伴う廃棄を極力減らす方法を採用して、ゲストハウス型ホテル「GRIDS」を開発しました。さらに、スモールオフィスのニーズの高まりを受けて、そのゲストハウス型ホテルを再度コンバージョンしてスモールオフィス「GREAMS」へ改築し、省資源、かつ短期間で、世の中のニーズに素早く対応しています。

●森林保護につながるサステナブルな家具を開発

ディノス

ディノスでは、創業50周年を記念し、大分県・日田杉の樹齢50年以上の大径木を使用した、サステナブルな収納家具を開発・提供しています。「森をまもる」をテーマに、デザイン会社と製材会社との協業で開発したものです。森林循環が滞り自然災害の一因にもなることが問題となる中、ニーズが減少し、伐採されず長年山に残されたままの大径木を使用することが、森林保護の貢献につながるという思いから、実現した取り組みです。



各地で発生する自然災害への対応

令和2年7月豪雨の被災地支援のため「サザエさん募金」を実施



©長谷川町子美術館

フジネットワークでは、東北地方から九州に至る広い地域で甚大な被害をもたらした「令和2年7月豪雨」の被災地復興を応援するため「フジネットワークサザエさん募金」を実施しました。（2020年7月9日～8月17日）

みなさまから寄せられた募金総額**1億8,272万8,172円**は、義援金として日本赤十字社を通じて被災地に送られました。

●「九州豪雨災害義援金」

ニッポン放送

2020年7月9日から各番組やニッポン放送ホームページを通じて呼び掛け、募金の受付を開始。お預かりした義援金は、熊本、大分、福岡、鹿児島、岐阜の被災した5つの県に「ニッポン放送聴取者一同」の名前で、送金いたしました。

義援金：**869万4,336円** [2020年7月9日～8月17日実施]

●「阪神・淡路大震災から 26 年 ～あの日の経験を忘れないために～」

ニッポン放送では平時から「運転中に地震が発生した場合」や、「非常の際の備え」など「地震に備える一口メモ」を番組内で放送しています。関東大震災以来の大規模災害として人々の記憶にも深く残った阪神・淡路大震災の経験、記憶を忘れないために1日を通して「防災」に関する情報をお届けしました。

●「ラジオで安心 みんなの防災 2020」

「安心・安全報道」「救命報道」を災害報道の基本姿勢としているニッポン放送では、毎年、防災の日を中心に『ラジオで安心 みんなの防災キャンペーン』を実施し、いざという時に備えた訓練放送等を実施しています。キャンペーン期間中は、各ワイド番組で防災に関する最新情報や取り組み等を発信する他、ニッポン放送独自の災害情報ネットワークである『タクシー防災レポーター』『理容防災ネットワーク』『学校安否情報』の模擬放送、そして『お勤め先安否情報』の受付訓練を行いました。[2020年8月31日～9月10日]

●千葉県と災害時等における協定を締結

災害時等における千葉県での更なる広報強化のため、千葉県と株式会社ベイエフエムとの「災害時等における相互協力に関する協定」を2021年3月10日に締結しました。ニッポン放送は災害時に千葉県から情報提供を受け、また株式会社ベイエフエムと相互に情報提供を求めることが可能になり、ニッポン放送は災害時に必要な情報を発信していくことで協力していきます。



顕彰制度を通じて豊かな社会を

●第29回地球環境大賞2020

「地球環境大賞」はフジサンケイグループが1992年に創設した産業界を対象とする顕彰制度です。WWF（世界自然保護基金）ジャパンの特別協力を得て、「産業の発展と地球環境との共生」をめざしています。2020年2月28日に発表された第29回の大賞は、世界初のリアルタイム被害予測ウェブサイト「cmap」を開発した産学共同研究に贈られましたが、新型コロナウイルスの影響で授賞式は中止されました。

フジテレビとBSフジは、気候変動や脱プラスチックをテーマにした地球環境大賞に関する特別番組を放送しました。

第29回 地球環境大賞「cmap」

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社・エーオンペンフィールドジャパン株式会社・国立大学法人横浜国立大学

地球環境大賞



●地球環境大賞2020特別番組
『さかなクンと徹底調査! ニッポン環境問題最前線』を放送

フジテレビ（関東ローカル）
[2020年10月10日 14:30～15:25放送]
BSフジ [2020年10月18日 14:00～14:55放送]

●高松宮殿下記念世界文化賞



©日本美術協会／産経新聞

「世界の文化芸術の普及・向上に広く寄与したい」という、故高松宮殿下のご遺志に基づいて、公益財団法人 日本美術協会によって1988年創設されました。フジ・メディア・ホールディングス各社は趣旨に賛同し、支援しています。絵画、彫刻、建築、音楽、演劇・映像の5部門で、これまでに30ヶ国、160人の方々が受賞されています。2020年は新型コロナウイルスの影響で、受賞者発表と授賞式は見送られましたが、これまでに受賞された5部門49人の方々から力強いメッセージが寄せられ、報告書特別号「芸術の力とコロナウイルス・パンデミック～高松宮殿下記念世界文化賞 受賞者は語る」が12月に刊行されました。

高松宮殿下記念世界文化賞
PRAEMIUM IMPERIALE
IN HONOR OF PRINCE TAKAMATSU

●第36回正論大賞

フジサンケイグループは、1985年から「自由と民主主義のために闘う正論路線」の基本理念を発展させた学者、文化人に正論大賞を贈って表彰しており、第36回は安全保障問題専門家の古川勝久氏が受賞しました。また新進気鋭の言論人を顕彰する第21回正論新風賞は、作家の竹田恒泰氏に贈られました。贈呈式は2021年3月、都内のホテルで行われました。



[贈呈式 2021年3月25日]

●第49回フジサンケイグループ広告大賞

総合性、創造性、大衆性に優れた広告を表彰するフジサンケイグループ広告大賞は、1971年に創設され、49回目を迎えました。2020年の最高賞・メディアミックス部門のグランプリは、トヨタ自動車の「トヨタタイムズ」が受賞し、4月14日に発表されました。新型コロナウイルス感染拡大の影響で贈賞式は中止となりました。

データで見る環境への取り組み

● 脱炭素化社会をめざして

お台場の本社屋では、エントランス、スタジオ、会議室、社員食堂等の照明のLED化や空調機のインバーター化、IE3モーターの導入、放送設備の省エネ化等により、CO₂排出量の削減に積極的に取り組んでいます。2019年には、東京都の地球温暖化対策計画制度に基づく基準排出量30,640tに対して、31%の削減を実現しており、都の定める削減義務率（2019年度まで-15%、2020年度より-25%）を大きく上回っています。

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
特定温室効果ガス・CO ₂ 排出量（トン）	23,194	22,680	21,780	21,768	21,201	19,752
基準排出量比※	-24%	-25%	-28%	-28%	-31%	-35%

※東京都地球温暖化対策計画書制度に基づく基準排出量比

● 循環型社会をめざして

社内のペーパーレス化や取材テープの再利用の推進等により、総廃棄物量の削減に努めています。また、社員食堂で出た水をトイレ洗浄水（中水）として再生利用することで、水資源の削減に努めています。さらにフジテレビでは、2000年10月からメーカーとノウハウを共有しながら、廃棄ビデオテープのリサイクルを行っています。使用後のビデオテープ（VHS、ベータカム、D2等、ハードケース含む）は館内で消磁作業をした後、障がい者就労支援施設に依頼し、各パーツを分解分別してリサイクルに回しています。

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
総廃棄物量（トン）	1,816	1,618	1,468	1,266	1,246	934
廃棄物リサイクル量（トン）※1	1,778	1,588	1,438	1,261	1,238	929
リサイクル率（%）	97.9	98.1	97.9	99.6	99.4	99.5
水使用量（m ³ ）※2	177,804	177,856	178,700	136,676	134,292	102,695
再生水製造量（m ³ ）	20,144	17,128	16,231	13,146	15,731	8,356

※1：フジテレビから発生するビデオテープについては、ゴミ分別、産業廃棄物排出量には計上されていません。

※2：水使用量には再生水使用量も含まれます

● 人材の多様性

当社グループの事業の要となるのは「人」です。ジェンダーや年齢に関わらず全ての従業員がいきいきと働くことができるよう時間外労働の短縮に取り組むとともに養育休職・育児時短制度の導入も積極的に行っています。

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
従業員数（10社合計※）	5,034名	4,769名	4,740名	4,103名
新卒採用人数	150名	138名	159名	162名
中途採用人数	115名	111名	108名	74名
外国人採用人数	12名	11名	8名	8名
女性従業員比率	32.2%	31.5%	32.3%	32.8%
女性管理職比率	18.2%	18.2%	18.6%	20.1%

《主要子会社10社※ 人事データ》 ※フジテレビジョン・BSフジ・ニッポン放送・共同テレビジョン・フジクリエイティブコーポレーション・ポニーキャニオン・DINOS CORPORATION・クオラス・サンケイビル・グランヒスタホテル&リゾート

当社は、放送法に基づく認定放送持株会社です。メディア産業を取り巻く環境変化にいち早く対応し当社及び当社の子会社(以下、当社グループ)の企業価値を向上させるには、子会社である株式会社フジテレビジョン(以下、フジテレビ)を核としつつ放送以外の周辺事業領域に対しても経営資源の最適な配分を行う必要があります。認定放送持株会社は、こうした対応に最も適した組織形態であると考えています。当社グループは、わが国を代表するメディア・コングロマリットを目指しており、その実現のためには適切なグループガバナンスが不可欠であると認識しています。

フジ・メディア・ホールディングスのコーポレート・ガバナンスにつきましては、以下のホームページのマネジメント体制をご覧ください。

● コーポレート・ガバナンス <https://www.fujimediahd.co.jp/corporate/governance.html>

内部統制

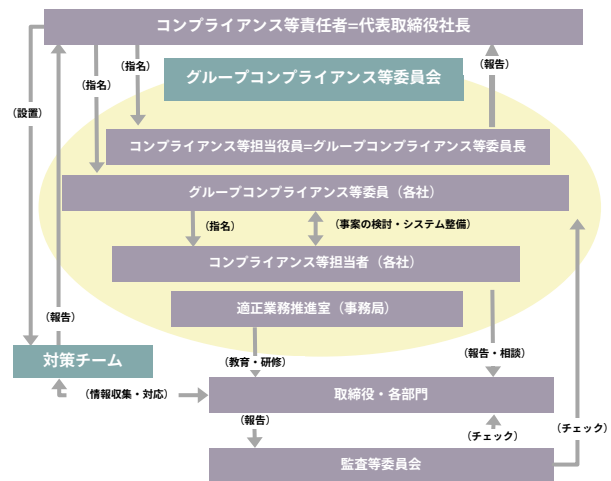
● 業務の適正を確保するための体制および当該体制の運用状況

1) 業務の適正を確保するための体制

当社は取締役会において、内部統制システムの基本方針となる「業務の適正を確保するための体制の整備に関する決議」を決議しております。なお、当社は2020年6月25日付で監査等委員会設置会社に移行したことから、この決議を改定しております。改定後の決議内容の概要は以下のとおりです。

<https://www.fujimediahd.co.jp/corporate/governance1.html>

当社の内部統制の仕組みは右図のとおりです。



2) 業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要

当期における運用状況の概要については以下のとおりとなります。

(監査等委員会設置会社移行前においても監査役について同様の体制を整備・運用しております。)

1. 取締役の職務執行

当期は取締役会を7回開催し、経営方針等の重要事項について審議・決定するとともに、取締役の職務執行について報告を受けました。取締役会にはすべて、当社の監査等委員である取締役を含む社外取締役が出席しています。業務の執行に関しては、代表取締役社長を中心に、業務執行取締役が効率的かつ迅速な意思決定を行っています。

2. グループコンプライアンスに関する取り組み

当社グループ各社の代表取締役社長を構成メンバーとする「グループコンプライアンス等委員会」を1回開催し、グループ全体のコンプライアンスおよびリスク管理に対する意識の向上を図りました。また、当社グループ各社のコンプライアンス等担当役員および実務担当者のそれぞれを対象とした会議を2回開催し、当社グループにおけるコンプライアンスおよびリスク管理に関する情報共有を行いました。また、年度に一度コンプライアンス活動に積極的に取り組んだ会社を報奨し、グループ全体におけるコンプライアンス意識の醸成に努めていますが、当期は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い実施を見送りました。

3. 内部監査の実施

「内部監査規程」に基づき、内部監査部門が「内部監査計画書」を作成し、当社グループを対象とした監査を行いました。監査結果については、当社代表取締役社長に対して報告を行うとともに、その概要を監査対象各社へフィードバックしました。

4. 監査等委員会の職務執行

当期は監査等委員会を5回開催（監査等委員会移行前の監査役会を1回開催）し、監査方針および監査計画を協議、決定しました。監査等委員会は、監査等委員会において定めた監査計画に基づき監査を行うとともに、当社の取締役（監査等委員である取締役を除く。）および子会社の代表取締役社長を対象とした面談を実施し、その職務執行に関する報告を受け、当社の子会社の常勤 監査役との間で、意見や情報の交換を定期的に行いました。また、当社の監査等委員会は当社の会計監査人および内部監査部門との間で、それぞれ意見や情報の交換を定期的に行いました。さらに、監査等委員会 による職務執行が円滑に遂行されるよう、監査等委員会が「監査等委員会規則」に基づいて選任した監査等委員会スタッフが、監査等委員会の招集事務、議事録の作成、その他監査等委員会の運営に関する事務および監査等委員会の職務を補助しています。

コンプライアンス

● コンプライアンス方針

当社グループは、「放送事業」を中核に、多様な業種・業態からなる「認定放送持株会社」です。放送事業では国民の共有財産である電波を使用し、様々な番組を制作して送り出しています。それだけにグループ全体が常に社会全体に思いを馳せ、「高い法令遵守の意識」「使命感」「倫理観」を持ち続けなければならないと認識しています。

また、当社グループは、社会からの信頼を獲得するために「コンプライアンス体制」の確立が何より重要と考えています。

一般的に「コンプライアンス＝法令遵守」と理解されますが、それにとどまらず、例えば、放送業界における民放連の「放送基準」「報道指針」のような、それぞれの業種・業態ごとのガイドラインやルール、さらに各社の「内規」や「企業倫理」についても重視しています。

● コンプライアンス体制

当社グループでは、「グループのコンプライアンス及びリスク管理等に関する規程」に則り、グループ各社は「コンプライアンス方針」「必要な体制」を整備し、社内での様々な取り組みを行っています。

それに加え、当社グループでは合同のセミナーなどを通じて、グループ全体の意識の向上に努め、社会からの信頼に常に誠実に応えていきたいと考えています。

詳しくは、「内部統制」（P26）をご参照ください。

● コンプライアンスの取り組み

当社グループ各社のコンプライアンス担当役員が参加する「グループコンプライアンス等担当者会議」、実務を行うメンバーによって構成された「グループコンプライアンス等実務者会議」のそれぞれを年2回実施しています。「グループコンプライアンス等担当者会議」は、当社グループ各社に関連する最新の法令・規制動向の情報共有や、コンプライアンスの取り組みに関する情報共有を行います。

● 教育・研修の取り組み

eラーニング・コンプライアンス研修2021

フジテレビが自社で実施しているeラーニングによるコンプライアンス研修は当社グループ各社へも提供されており、その実施範囲は毎年拡大しています。



コンプライアンス研修の問題画面と解説

● 意識向上の取り組み

コンプラがんばった大賞

コンプライアンスの向上に努力した当社グループ各社に対し、「コンプラがんばった大賞」を授与しています。2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い実施を見送っております。



がんばった大賞のトロフィー

● グループ内部通報制度の充実化

当社グループが一体となってコンプライアンス活動を推進するため、各社で働く方が利用可能な「FMHグループ内部通報制度」を整備し、あわせて、円滑な運用と活動促進のため、「FMHグループ内部通報ガイドライン」を作成し、グループ各社内での周知を行っています。

● 各社の取り組み

ダイバーシティブック (DINOS CORPORATION)

すべての社員がワークもライフも大切にし、高いパフォーマンスと新たな価値を創造できる「イキイキ社員」を目指し、企業と共に成長できる環境を作り出していく、という「ダイバーシティ宣言」のもと、社内の理解促進、啓発のために年に1回「ダイバーシティブック」を発行。部の取組・制度・柔軟な働き方などを紹介しています。また月1回ダイバーシティ&インクルージョン（以下、D&I）理解のための情報、保健師の健康コラム等を掲載したメルマガ「ダイバーシティ通信」を発行しています。



ダイバーシティブックvol.2

障がい者雇用 (DINOS CORPORATION)

2018年7月のダイバーシティ推進室の新設から、D&Iの推進のため、障がい者社員については、雇用率3%を目標に採用と定着を進めてきました（現在3.17%）。取り組みの一環として、バドミントン競技で、パラリンピックを目指す谷口貴之さんを採用。現在、谷口さんはロジスティクス部にて勤務、競技活動との両立を行っています。



谷口 貴之さん（写真右）
物流本部ロジスティクス部

相談窓口・コンプライアンスカフェ（ポニーキャニオン）

「内部通報には至らないけれど気になる悩みを相談できる」相談窓口を作るべく2016年10月に「コンプライアンスカフェ」をスタートしました。相談者のプライバシーを守ることを意識しながら会社の会議室で相談を聞いています。当時は相談者にリラックスしてもらえるようドリップ式のコーヒーを提供していたためこのようなネーミングとなっています。相談方法も新たにWEB通報相談システムを導入し、より相談しやすい環境に移行しています。



相談窓口の
キャラクター

ノベルティの作成を障がい者施設に委託（フジミック）

展示会出展の際に、来場者向けのノベルティの作成をしています。このノベルティ（メモ帳）の作成はCSR活動の一環として、株式会社SEIUNDOを通し、その工程を障がい者の就労支援施設に委託しています。



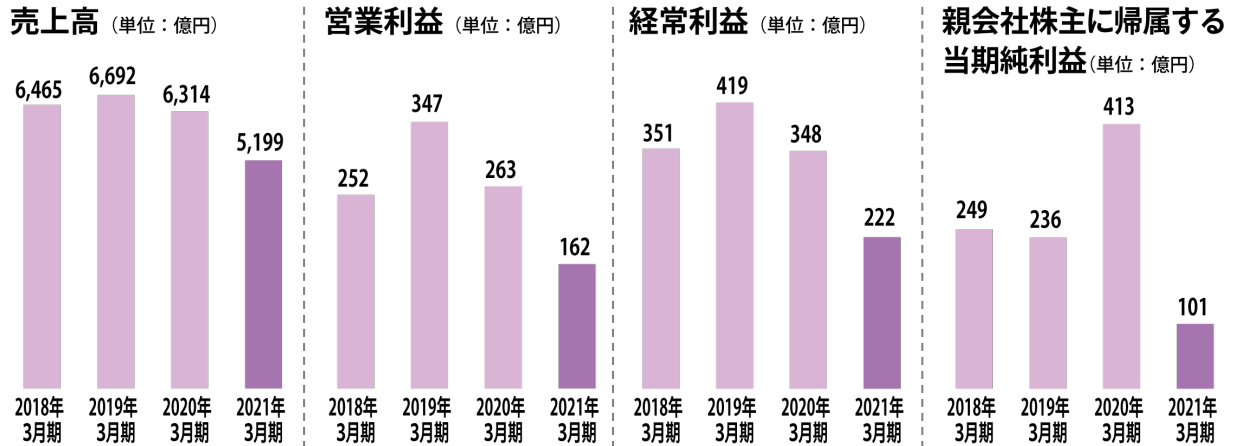
ノベルティ

財務サマリー

● 業績ハイライト

ポイント

- 売上高は、メディア・コンテンツ事業、都市開発・観光事業がともに減収となり、全体で減収。
- 営業利益は、メディア・コンテンツ事業、都市開発・観光事業がともに減益となり、全体で減益。
- 経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は減益。



セグメント別売上高構成比 (%)



組織概略



主な子会社の業績 (単位: 百万円)

	フジテレビジョン		BSフジ		株式会社 ポニー キャニオン		株式会社 DINOS CORPORATION		株式会社 サンケイビル	
	前期	当期	前期	当期	前期	当期	前期	当期	前期	当期
売上高	255,523	217,577	17,920	14,305	40,977	31,006	104,899	101,904	72,213	52,059
営業利益	7,160	5,071	1,705	1,948	1,836	2,119	449	2,012	13,402	8,884

関連会社 (株)産業経済新聞社、(株)フジランド、日本映画放送(株) 他

※財務情報の詳細は、HPの株主・投資家情報をご覧ください。



会社概要

商号	株式会社フジ・メディア・ホールディングス FUJI MEDIA HOLDINGS, INC.
事業内容	認定放送持株会社
事業所	本社 〒137-8088 東京都港区台場2丁目4番8号
設立	1957年（昭和32）11月18日 株式会社フジ・メディア・ホールディングスは、2008年10月1日付けで、認定放送持株会社への移行に伴い、「株式会社フジテレビジョン」から商号変更し、「株式会社フジテレビジョン」の事業は新設の「株式会社フジテレビジョン」が承継しました。
資本金	1,462億35万円
連結従業員数	6,880名（2021年3月末時点）
代表者	代表取締役会長 宮内 正喜 / 代表取締役社長 金光 修

フジ・メディア・ホールディングス CSRレポート2021

編集方針

本レポートはフジ・メディア・ホールディングス各社が2020年度に行ったCSR活動をまとめたものです。主たる事業である放送とエンターテインメントをいかして、多岐にわたる活動を行ってきました。本レポートはそれらをみなさまにご理解頂きやすいよう編集し、まとめたものです。

- 対象期間 2020年4月1日－2021年3月31日（※一部この期間以外の情報も含んでいます。）
- 発行日 2021年8月27日

ホームページでもCSRに関する情報を開示しています。
<https://www.fujimediahd.co.jp/csr/index.html>

✉ csr.ss@fujitv.co.jp | フジ・メディア・ホールディングス CSR・SDGs推進室

フジ・メディア・ホールディングス

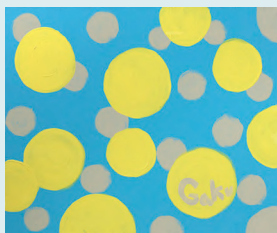


Photo : Miyagawa Maiko

GAKU

20歳の自閉症アーティスト。川崎市在住。3歳の時に自閉症と診断され、4歳の時、最先端とされていた療育を受けるためにアメリカ・ロサンジェルスへ家族で渡る。9年間ロスで療育を受けながら過ごし、14歳の時に日本に帰国。父親が息子のために「新しい福祉」をめざして設立した株式会社アイムに在籍。16歳の時に突然絵を描き始め、2年後ニューヨーク・ブルックリンで個展を開催。その後も国内で個展を開いたり、様々な商品とのコラボも実現するなど、多方面から注目されている。

bygaku.com 「bygaku」で検索。